



### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のさずなで結ぼう

昭和五十年（一九七五）六月十四日から三日間にわたって、因島市民会館を主会場にして第三十一回日本ユネスコ運動全国大会が盛大に開催されました。この大会を支援するため、国際平和文化都市をめざす広島市にユネスコ活動の拠点をつくりたいという広島大学名誉教授、内海巖氏（後に日本ユネスコ協会連盟副会長）の熱烈なご指導のもとに、当時広島県教委社会育課におられた齊藤清三氏、市教委の山崎克洋氏、古田碩永氏、広大附属高校の太鼓矢晋氏らが中心となって、準備会を経なが



## 広島ユネスコ協会会長 伊 東 亮 三

# 広島ユネスコ協会結成25周年を迎えて

昭和四十八年六月二十三日に産声をあげた広島ユネスコ協会は、ことしで発足二十五周年を迎えます。当協会では、発足二十五周年を記念した事業について、近々のうちに素案づくりにとり

かかるとの予定ですが、また、これからの協会のあり方についても検討する必要があるでしょう。ここでは、伊東亮三会長に発足二十五周年を迎えるにあたって、所感を寄せてもらおうことにしました。

ら昭和四十八年六月二十三日には、広島ユネスコクラブが結成されました。その時の役員の一部を列挙してみます。

◇代表理事Ⅱ土橋訓之（観音高校）◇副代表理事Ⅱ山崎克洋（島市役所）、水野文隆（広島市青少年センター）、深崎敏之（皆実高校）◇事務局長Ⅱ古田碩永

◇監事Ⅱ北川建次（広大助教授）

翌昭和四十九年、ユネスコクラブは発展的に広島ユネスコ協会と改名しますが、平成十年度がこのクラブ発足二十五周年となるわけです。

その後、広島ユネスコ協会は、国際平和文化都市広島市の平和活動のひとつの核として、市の国際平和活動に関与・協力したり、民間ユネスコ世界大会広島

大会を成功させました。また、北京ユネスコクラブと日中友好姉妹協定を結び、八年間の相互交流を行い、さらに、原爆ドームのユネスコ世界遺産化運動への参加、八十回に近づく国際交流サロンの開催などの活動を続けてまいりました。

いま、あらためてこの二十五年をふりかえってみるとき、当時、まだ四十歳前後であった結成時の役員の方々が中心となつて、その後、永井滋郎、河村盛明、松原博臣、加藤朗一、信井正行氏はじめ、多くの方々の献身的な協力があって、広島ユネスコ協会は維持され、発展したことに気づき、感謝申し上げます。

ユネスコのようなボランティア活動は、少数の実践者がいて派手な活動をしていては永続き

できません。その点で、わが協会の発足時からの右にあげた役員の方々が、せん越ですが、ユネスコ精神に共鳴された熱心な平和文化追求者でありながら、突出されることなく、協力的に縁の下の力持ちに徹せられる着実な方ばかりです。それが、わが協会の力であり、特色であると考えます。同時に、今後、着実に協力的に活動を続けたいと願っています。

### 25周年記念事業にプロジェクトチーム

# ユネスコ運動50年目の挑戦

## 日本ユネスコ協会連盟理事長 村井了

わが国で民間ユネスコ活動がスタートして五十年を経過しました。そして、広島ユネスコ協会が発足して二十五周年を迎えます。そこで、昨年九月十一日に、日本ユネスコ協会連盟の村井了理事長が読売新聞に寄せられた論文を再掲し、今後の民間ユネスコ運動のあり方を考えてみたいと思います。

ユネスコ（国連教育・科学・文化機関）への民間協力運動、いわゆる民間ユネスコ運動が日本ですたートして、今年で五十年を迎えた。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と高らかに宣言したユネスコ憲章が掲げる理念に共鳴し、NGO（民間活動団体）活動で実践して行く、という運動である。

一九四七年十一月、学者やジャーナリスト、文学者、経済人、医師、学生、政治家の有志たちが東京・日比谷公会堂に集い、ユネスコ運動を広げて行くことと全

国大会を開いた。ユネスコ憲章の趣旨を国内に広く普及、啓発することで平和文化国家の基礎を築き、ユネスコに早く加盟して再生日本の国際化の窓を開くというのが、大きな目標だった。これが民間ユネスコ運動のルーツであり、敗戦直後の廃墟の中にあつて、当時の国民、とくに大学生、識者の多くは国家再建の夢を平和文化国家に託し、一生懸命、働き学んだ。占領下でありながら、ユネスコを通じた国際的な協力にこたえていこうとしたこの動きは、活発に各地に広がっていった。日本が、国連加盟に先立つこと五年前の五一年に、ユネスコ加盟を果たしたのも、こうした運動が背景にあつたからにはかならない。以来、全国に結成された運動の拠点である「ユネスコ・クラブ」「ユネスコ協会」は、現在、二百七十を数えるまでに成長した。

で、江戸時代の寺子屋にならつて「世界寺子屋運動」と名付けている。本格的に取り組み始めてからすでに八年になり、主にアジア・太平洋地域で活動や支援を広げてきた。対象は、読み書きを学ぶ機会を逸し、今も制度的にその恩恵にあずかれない成人、とくに女性たちだ。これまでの世界寺子屋運動で、四十二か国・一地域に約五千の教室を建設した。この寺子屋で学んだ人々は延べ百万人近くに上る。しかし、世界人口約五十八億人のうち十億人近く、依然として非識字者である。アジア地域には、その七五%が存在しているだけに、まだまだ道のりは険しい。

もう一つの重点は、世界遺産条約に基づく地球環境保護や文化財の保護・保全活動である。地球上には地球そのものの生成の歴史を映す自然を始め、先達の偉業の証として存在している文化や文化財が各地にある。まさにこうした遺産に触れ、感動を分かち合つて、人間相互の連帯意識を強め、協力しながら世界的な文化遺産の保全に努めよう、という趣旨である。具体的には、各地の遺産を収録したビデオの普及に努めたり、パンフレットや冊子による啓発などを通じて募金をお願いし、遺産保全のために役立てる活動と勉強をしている。

国連機関のユネスコが、教育や世界環境の整備という地味で息の長い事業を進めていくには、民間運動を含む各国のたゆまざる協力が不可欠である。もちろん、教育に例をとれば、本来的には、その国独自の行政であることは言うまでもない。しかし、国々には様々な事情があり、政治・行政や社会システムが行き届かない場合がある。そこではまず、教育から疎外されている状況を改善、解消するのが重要だ。そのために力を蓄え、実際に運動できることこそ、民間のエネルギーといつていい。貧しい人々を保護するのではない。貧しくて教育が受けられない人々が存在しなくなるよう、社会づくりを支援するのがユネスコ運動である。

日本で生まれた民間ユネスコ運動が五十年を迎える今年、まさしく奇遇と言おうか、英国が七月一日にユネスコに復帰したのはうれしい限りだ。忍耐力に優れた英国が戻ってくることは、教育のような時間のかかる社会システム整備にとって大きな価値がある。

日本の民間ユネスコ運動は、世界一盛んなものとして自他とも認められている。百二十か国で五千にも上る世界の民間ユネスコ・クラブの会長国でもあり、世界で唯一、超党派のユネスコ国会議員連盟も存在する。それでも、半世紀前の荒廃した国土にわき起こった「夢」実現への道は、いまだ道半ばである。次代を担う日本の青少年には、ユネスコの目的に沿って、多様な文化との相互理解をぜひ深めてもらいたい。自らの文化を再認識しながら、他の文化を学び、受け入れることのできる複眼的発想を身に付けてほしい。

ユネスコとしては、発展途上国を中心とする世界各国の教育問題について、常に価値ある情報の提供と勧告を怠つてはならない。グローバリズムと多民族、多宗教の調和のため、国連のシンクタンクとして有効な提言をなすような挑戦も期待したい。

われわれもまた教育や文化、科学に熱心で、真摯な文化を持つ日本の力を信じ、次世紀に向けて民間ユネスコ運動に全力を挙げたい。

# 高校生海外研修参加者の集いを開催

平成九年十二月二十日、広島県生涯学習センターにおいて表記の会合をもちました。全参加者の半数近くが県外の大学に在学中で、まだ冬期休業に入っていないため帰省できず、出席者は八名でしたが、欠席者の殆どが「海外研修体験と現在の私」をテーマとしたレポートの提出を以て出席に代えました。

まず、伊東亮三会長からの、この研修の成果と今後への期待についてのご挨拶に続いて、深崎敏之副会長・団長から、この企画の狙いとその実施に至る経緯の詳細なご説明がありました。ついで、倉田信雄顧問からお言葉を賜りました。倉田先生には近年大手術を受けられ、ご不自由なお身体をおして奥様共々ご出席頂きました。先生の若者にかける大きな期待を限りない情熱をこめて話され、一同、感銘深く拝聴いたしました。

続いて各参加者からのスピーチと、欠席者から寄せられたレポートの披露がありました。いくつかを拾い上げてみます。「自分の目で見、接してみてもめて物事の本質が分かるように

なったと思う。」「現地の人びとの信仰や生活から切り離され、観光者向けのショーや土産物となった伝統文化に対する違和感を感じた。」「敦煌の鳴沙山を自分の足で登りながら、自分ほもっと大きな人間になれる」という気になった。」「本当の『違い』。それは知識として得られるものでも頭で理解できるものでもなく、

## 20回迎えた 高校生のつどい

広島における高校生のユネスコ活動、「高校生のつどい」が記念すべき二十回を迎えて昨年十一月十六日、広島大附属高校で開かれました。

毎年参加の広島大附属高、桜が丘高校に加えて今年はノートルダム清心高が初参加。「アジアの女性」をテーマに研究発表が行われ、広島県ユネスコ連協永井滋郎会長の「世界遺産」の講義を受講しました。

参加者は午後、広島そごう前で募金活動を展開、四万円余の浄財が集まり、寺子屋運動寄金として日ユ協連に届けました。

経験で感じることでしか納得することはできないと知った。」「それぞれに、海外研修の体験を転機として大きく変容し、一段と成長したあとが窺えました。中でも、自分の思いも充分に話せないほど寡黙だったのが、帰国後は生徒会長となつて活躍するという大変貌を遂げたKさんは、次の回想でスピーチの結びとしました。「やっぱり、中国へ行って色々なことを体験したからできたのだと思います。」(常任理事・永田龍男)

## 中国ブロックユネスコ 活動研究会に参加して

去る二月二十一日、二十二日の両日、中国ブロックユネスコ活動研究会が山口県下関市の海峡メッセ下関を会場に中国五県各ユネスコ協会代表並びに関係者約七十名の参加をえて開催されました。今回は、昨年十一月に開催された全国大会のテーマである「二十一世紀の平和・多様性の中の共生への道」を再度取り上げた研究協議でした。

広島市ユネスコ協会からは、太鼓矢常任理事、國田理事が出席しました。

第一日目は、十三時から開会式に続いて、記念講演「国際青年

年キャンプの取り組みと成果について」、講師に韓国ユネスコムディレクター(李銑宰氏)をお招きし、キャンプでの国際交流の様子をスライドやゲームなどを通してお話されるとともに、下関市とは十八年前から交流がすでに行われていたことも紹介されました。その後、中国地区各県・市のユネスコ協会からの報告がありました。世界寺小屋運動への取り組みや、講演会、パネル展示、国際交流活動、また、組織のかかえる問題点などが報告されました。とくに、山口県内に七つある青年部のうち、宇部・萩市から青年部の活発な活動紹介があり、熱心な意見交が行われました。

広島ユ協からは一昨年、原爆ドームが世界遺産に登録されたのを記念し作成した絵葉書や機関紙「ヒロシマユネスコ」(特集号)を持参し、その取り組みについて報告いたしました。

第二日目は、九時三十分から、東行記念館学芸員一坂太郎氏を講師に迎えて「下関における歴史的な事柄(維新の胎動)」の講演があり、明治維新から百三十年経った今日、下関は、関門海峡に接する港の町として、古くから交通の要所、文化の交流

点として栄えたところで、国際交流がいち早く行われてきたところである、等々、歴史的な事柄についてお話され、参加者は熱心に聞き入っていました。

閉会式では、次期開催地の鳥取市からあいさつがあり、十一時十五分に閉会しました。

その後、中国ブロック連絡協議会が開催され、構成団体の負担金の取りまとめ方法について次期開催地で提案されることになりました。

併せて、今回は下関ユネスコ協会五十周年を記念した講演会やミュージカルなどの催しですが、午後からイベントホールで盛大に行われました(理事・國田繁)

## 国際子どもサマーキャンプ今夏、広島で開催

全国の中学生、高校生を対象に毎年夏休みに開催されている「国際子どもサマーキャンプ」(日本青年ユネスコ連絡協議会など主催)が、今年八月五日〜九日、もみの木森林公園で行われます。

広島ユネスコ協会としては、この行事を後援し、この開催を側面から援助します。また、この行事を運営するための学生、青年らの組織が結成されつつあり、当協会としては、これを契機に青年部の結成も視野に入れて活動を支援していきます。

# ユネスコ世界遺産写真パネル 公開展示に活用を

優れた世界の自然と文化を指定したユネスコ世界遺産のうち二十三地区の写真をあしらった十八枚のパネル(二枚のサイズは縦四六センチ、横六〇センチ)はユネスコ協会連盟発行を購入しました。

パネルの内容は原爆ドーム、厳島をはじめ国の内外の写真のほかユネスコ世界遺産の概要などを解説した説明文もあり、学校、公民館などでの展示に供していきます。会員のみさんの活用を待っています。

パネルはケースに入れて持ち運びが容易です。利用申し込みは事務局まで。

### 写真内容

日本／原爆ドーム、厳島、屋久島、白川郷五箇山の合掌造り、姫路城、古都京都の文化財(京都、宇治、大津)、白神山地、法隆寺地域の仏教建造物  
外国／万里の長城(中国)、アンコール(カンボジア)、エルサレム旧市街とその城壁(エルサレム)、ウルルカター・ジュスター国立公園(オーストラリア)、メキシコシテイ歴史

地区とソチミルコ(メキシコ)、マチュ・ピチュの歴史保護区(ペルー)、ドロット

ニングホルム)の王宮(スウェーデン)、ドウルミトル国立公園(ユーゴスラビア)、ピサのドオモ広場(イタリア)、アテネのアクロポリス(ギリシャ)、ジェンネ旧市街(マリ)、アイルとテネレの自然保護区群(ニジェール)、ゴレ島(セネガル)、イグアス国立公園(アルゼンチン、ブラジル)

## アジア五か国代表、来広

日本国内委員会のフェロシ

ップ事業として招待された韓国、タイ、ベトナム、ネパール、フィジーの各国内委員会に所属する委員、職員五人が、日本での研修の一環として三月十四

日、原爆ドーム、厳島などを永田龍男常任理事の案内で見学、また原爆資料館では高橋昭博副会長が被爆体験などを一行に語りました。

## 広島5氏3団体表彰 ユネスコ50周年記念で

日本の民間ユネスコ運動発祥50周年を記念してユネスコ運動に功労があつた個人、団体に対して、また同運動に貢献された外部の個人、団体に対する表彰が、昨年11月28日開催の記念式典で行われました。

広島ユネスコ協会関係で表彰された方は次のとおり。

- ※ 表彰状 (日本ユネスコ協会連盟功労) 高橋昭博副会長
- ※ 表彰状 (地域ユネスコ活動功労) 太鼓矢晋、山崎克洋、古田碩永各常任理事
- ※ 感謝状 (日本ユネスコ協会連盟功労) 沖原豊顧問
- ※ 感謝状 (地域ユネスコ活動功労) 多山報恩会、タカキベーカリー、湧永製菓

## 日誌

### (十月)

五日 第十四回ペアセロベ97  
第十八日 第75回国際交流サロン  
「ガラスよもやま話」  
工芸家／宮田洋子氏

(十一月)  
十五日 理事会

第76回国際交流サロン  
「ポルトガル最新事情」  
鈴木女子短大講師／増田敬哉氏

十六日 第20回広島ユネスコ高校生をつどい  
コーアクション  
二八日 日本民間ユネスコ運動  
発祥50周年記念式典で

### (二月)

十日 機関紙「ヒロシマ・ユネスコ」第42号発行  
第77回国際交流サロン  
「野球を通じての人間形成」元広島カープ監督／阿南準郎氏

新年懇親会

(二月)  
二二日 理事会

第78回国際交流サロン  
「原爆ドームとその仲間たち」ヤン・レツル  
研究者／雨野忍氏

(三月)  
二五日 機関紙「ヒロシマ・ユネスコ」第43号発行

## 予告

### (四月)

二五日(土) 13時半～15時半

広島アンデルセン

○ 第79回国際交流サロン  
「アイスランド・原爆ドーム油絵展」画家／山崎理恵子氏

○ 理事会

15時半～17時

### (五月)

二三日(土) 13時～15時

広島アンデルセン

○ 第80回国際交流サロン  
「トワ・エ・モア(コーラスグループ)」指導者／石橋尚子氏

○ 定期総会

15時～17時

## 会員消息

内田憲至常任理事

勲四等瑞宝章(視聴覚教育の功労に対して)  
平成九年十一月

## 訃報

長島栄蔵氏(会員)

平成十年二月二十日、ご逝去  
享年四十三歳